

東京都教育研究員 高等学校数学部会 報告

研究主題

思考力・判断力・表現力を高めるための、主体的・協働的な学習の指導と評価について

世話人	田中啓之	(都立戸山高等学校)
研究員	松村正博	(都立江北高等学校)
	三好範幸	(都立南葛飾高等学校)
	伊藤好弘	(都立六本木高等学校)
	和田健二	(都立紅葉川高等学校)
	千葉和輝	(都立立川高等学校)
	森田 聡	(都立小金井工業高等学校)
	石井裕子	(都立東大和南高等学校)
	村越 智	(都立東村山西高等学校)

研究発表会

実施日時	平成 29 年 2 月 13 日(月)	14:00~17:00
実施場所	都立紅葉川高等学校	
内 容	(1) 14:15~15:05	実践授業
	(2) 15:15~16:30	研究発表
	(3) 16:35~17:00	質疑応答 指導・助言

概要

平成 28 年 8 月に文科省から出された「審議のまとめ」では、新しい時代に求められる資質・能力を「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つとした。その中でも、「思考力・判断力・表現力等」に関する現状として、根拠を明確に示しながら自分の考えを述べることに課題があることが指摘されている。また、学習評価においては「知識・技能」に偏った観点別評価がなされている現状がある。以上より、本部会では以下の 2 点を課題と考えた。

- ① 思考力・判断力・表現力を高めることができる授業を行う必要がある
- ② 多面的な評価を行う必要がある

これを踏まえ、研究主題を「思考力・判断力・表現力を高めるための主体的・協働的な学習の指導と評価について」とし、一考察を行った。研究の仮説を『「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの資質・能力は、相互作用的に関係しあうもので、資質・能力の一つに焦点を当てた目的を設定し、主体的・協働的な学習を行い、評価することにより、思考力・判断力・表現力が高められる」とした。このことを検証するために、学力到達度の異なる全日制普通科高校 3 校における検証授業と、適した学習指導計画・評価規準の作成を行った。

検証授業Ⅰ「学びに向かう力・人間性等」に焦点を当て、態度目標を設定した授業

答えを求めることが目標ではなく、なぜその方法で答えを求められるのかを理解し、説明しあう主体的・協働的な授業を行った。「話す、聞く、協力する、貢献する」といった態度目標を示しグループ全体が主体的・協働的な活動を活発化させるた

めの工夫を行った。最後に小テストや振り返りシートの記入をさせて、授業の前後での生徒の変容を分析した。

検証授業Ⅱ「個別の知識・技能」に焦点を当て、課題を工夫した授業

課題で、問題と問題の考え方を結び合わせる課題を提示し取り組ませた。「個別の知識・技能」を刺激し、問題の方向性が分かり、解ける問題が増えることで、学習への取り組み意欲、思考力・判断力・表現力の向上をねらった。問題をグループで学び合う主体的・協働的な学習方法で授業を行い、ワークシートを用いて事前事後のチェックや授業の感想から、生徒の変容を分析した。

検証授業Ⅲ「思考力・判断力・表現力」に焦点を当て、答案の比較・検討を取り入れた授業

個々の生徒のもつ表現力は答案上に現れており、個人学習で答案を作成し、グループ学習の中で複数の答案を比較・検討することで、個々の生徒がもつ問題に対する考え方(思考力)、解法を選択する力(判断力)、答案を記述する力(表現力)が高められると考え、授業を行った。個人での活動の後、複数人で解答の比較・検討を行い、記述による変容をワークシートから分析した。

以上 3 つの検証授業から、それぞれの観点に着目して授業案を作成し、実施することで思考力・判断力・表現力が高まるのかを考察した。それぞれの授業で行った、小テストや振り返りシート・感想、ワークシートの事前事後の変容から分析した。成果としては

- (1) 主体的・協働的な活動の活性化
…興味関心を高めるとともに、協議しながら学び合い、深い学びにつなげることができた。
- (2) 思考力・判断力・表現力の向上
…「新たな視点から問題を見ることができた」という部分から思考が深まったといえる。

また、学力到達状況に適した生徒の学習プロセスを可視化する評価規準を作成したことで、全体的に生徒の変容が良い方向に向かう傾向がみられた。

今後の課題として

- (1) 態度目標の明確化…何のための対話的・協働的な学習を行うかを生徒に理解させることが大事
- (2) 学習形態の工夫…対話的・協働的な学習は普段の学校生活における人間関係、授業規律や教室で雰囲気づくり・環境整備が大事であり、細かい指示や工夫も必要
- (3) 主体的・協働的な学習活動の効果的な取り入れ方
…科として組織的な対応や長中期的な授業計画が大事
- (4) 評価について…教員からの評価と生徒の自己評価にずれが生じているので、学習に対する自己調整が行える評価の在り方、方法の改善が必要

が挙げられる。これからも継続的に生徒が主体的・協働的に取り組むための授業を提案し、効果的な学習が行われるよう指導と評価の一体化を図っていくことが重要と考える。

文責：編集部 千葉和輝 (都立川高)